

- ・利用者の高齢化、重度化が進み、夜間の健康管理や見守りの必要性が高まっているグループホームを対象に見守りベッドセンサー及びクラウド化、業務用Wi-Fi基盤を整備しました。
- ・利用者健康管理の効率化と職員の業務負担軽減を両立することにより、サービスの質の向上を図ることを目的としています。

### 見守り機器導入

#### 【導入前の状況】

夜勤職員は、頻回に居室に行き、健康状態を常に見守る必要がある方、急変リスクのある方の支援に対して緊張感を抱えながら業務を行っている状況でした。

#### 【導入による成果(現時点)】

ベッドセンサーの活用により、睡眠や離床の状況をリアルタイムで把握できる体制になりました。結果、必要なタイミングで居室へ行くことができ、夜間の支援体制や健康面に関する記録業務の時間削減につながりました。

健康状態の変化を早期に捉えられることで、職員の心理的負担の軽減にもつながっています。

### ICT基盤整備(クラウド化・Wi-Fi環境構築)

#### 【導入前の状況】

これまで支援現場では紙でのメモや口頭での引き継ぎが中心であり、転記作業や情報の行き違いが発生しやすい状況でした。また、通信環境が不安定で、ICT活用に制限が見られました。

#### 【導入による成果(現時点)】

業務用Wi-Fiの整備により、安定した通信環境を確保しました。

クラウド化により、情報を即時に共有できるようになり、健康管理記録の転記作業も削減されました。これにより、職員はより支援が必要な利用者への対応に時間を充てることのできる環境が整いました。

### 今後の検証

効果測定は短期間での実施になったので、次年度は1年間を通じて、夜間の居室へ行く回数や記録業務時間の削減率、利用者状況の情報共有などを測定し、より実測値になるよう数値化して検証を行う予定です。

### 業務効率化の具体的効果

夜間の居室訪問時間の削減や、引き継ぎ業務の簡素化が進みましたので、引き続き検証していきたいと考えています。

情報伝達ミスを抑え、緊急対応のリスク軽減にもつながりました。今後各部署でのICT推進の取り組みへの橋渡しにつながる良い機会になりました。

効果測定が短い期間だったので、継続は必須になります。全体約20%の業務時間削減を想定しているので、見守り機器導入により創出された時間を、より本人主体の支援や生活場面での意思決定支援の充実へ再配分できる手立てにつながりました。

### 職員の声(抜粋)

健康状態をスムーズにまずは確認することができ安心感が生まれた。

法人内の事業所間で情報共有を進めるきっかけとなった。これまで書類が多かったので、今回もクラウド化になり、今後よりペーパーレスにつながる。



### 【課題】

システムエラー時の対応への不安や、情報量が増えることへの整理の必要性など、今後の運用課題も明らかになっています。

### 今後の課題と展望

多様な働き方がある中で職員全体のICTリテラシーの底上げは必要だが、個人差が必ず出るのでIT共通理解の標準化について、公平性を含めた再検討が必要になります。

法人全体として、セキュリティ対策や業務システム管理体制の整備も進めていきます。

将来的には、3市1町に点在する14グループホームへ段階的に導入し、地域で暮らす障がいのある方を支えるネットワーク型支援体制の構築を考えます。

健康データの蓄積を活かし、利用者のQOL向上と職員の働くうえでの安心感向上の双方を一緒に進めていきます。